



愛知陸協広報

第38号

平成28年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

面目躍如 駅伝王国愛知

天皇盃都道府県対抗男子駅伝

皇后盃都道府県対抗女子駅伝



15年ぶり2回目の優勝



念願の初優勝

(写真提供: 陸上競技マガジン社)

ニューイヤー駅伝(全日本実業団駅伝)



昨年に続き連覇(3度目の優勝)のトヨタ自動車

平成28年の愛知の陸上界の幕開けは、駅伝チームの活躍により大いに沸き立ちました。皮切りは、トヨタ自動車のニューイヤー駅伝連覇。続いて、都道府県対抗女子駅伝での念願の初優勝。アンカー鈴木選手の大逆転劇には、胸が熱くなりました。更に、都道府県対抗男子駅伝でも、昨年の失格を補って余りある15年ぶりの優勝。三冠の獲得は、他の都道府県には例のない活躍です。

京都開催50回記念の大会であった昨年末の全国高校駅伝においても、記念大会の東海地区枠を男女とも愛知県が獲得しています。愛知を「駅伝王国」と称したいほどに、駅伝チームの活躍を心から称賛します。



平成27年度を振り返って

専務理事 稲垣 裕

平成27年度は愛知陸協にとって新たな歴史を刻む年となりました。1月に行なわれた天皇盃第21回全国都道府県対抗男子駅伝大会と皇后盃第34回全国都道府県対抗女子駅伝大会において、見事優勝を飾ることができました。男子は15年ぶり2度目、女子は初優勝、男女アベック優勝は大会史上初めての快挙です。選手・スタッフの皆さんのご尽力に対し、心より敬意を表します。県民の皆さんからの反響も大きく、事務局へお祝いのお言葉や激励を多くいただきました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。来年は連覇を目指し、一層の飛躍の年になるよう期待しております。

昨年8月の北京世界陸上では、市川華菜選手(ミズノ)が4×400mリレーで日本新記録を樹立。長田拓也選手(法政大)も4×100mリレーに出場し活躍しました。高校生では向井智香選手(至学館高)が世界ユース陸上の1500mで6位。インターハイでは800m・1500mの2種目優勝。国体の800mでも優勝し、大活躍しました。中学生では烏居風樹選手(800m—末野原中)、大上颯麻選手(3000m—猿投台中)、藏田源貴選手(走幅跳—愛教大附中)が全日中で優勝し、若手の活躍に益々期待が高まります。

来年度は6月にパロマ瑞穂スタジアムで、記念すべき第100回日本選手権大会が開催されます。地元から一人でも多くの選手が活躍し、オリンピック出場を果たしてほしいと願っております。大会運営では愛知陸協として万全な体制を整え、オリンピック選手選考会にふさわしい大会となるよう準備していきたいと思っております。

専門委員会報告

総務委員会

2016年のシーズンも目の前に迫り、登録が3月1日から始まりました。公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するためには、愛知陸協に登録し、日本陸上競技連盟の登録会員にならなければなりません。

2016年は、日本選手権をはじめとして東海大会以上の競技会が多数組まれています。そのため、各大会での審判員不足が懸念されます。審判員資格を持っている方で、登録をされていない方が多いのではないのでしょうか。是非、登録をお願いします。また、審判講習会受講者の多くが資格を取得されたと聞いています。この方たちも含め、若い方たちの登録をお待ちしています。

登録は、「登録要項」またはホームページを参照して行ってください。なお、不明な点は、事務局(電話052-249-4363)までご連絡ください。また、年度の登録申請期間は、毎年3月1日～11月30日(高校は10月31日)までです。

登録担当者・申請先を掲載します。(転勤等で、担当者の所属先が変わる場合があります。)

一般団体・個人

名古屋	赤司 学	市立工芸高等学校
尾張	門脇 良佑	尾北高等学校
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校
東三河	山本 誠司	蒲郡東高等学校

大学生

全 県	愛知陸協事務局	052-249-4363
-----	---------	--------------

高校生

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名古屋女子大学高等学校
尾 張	浜田 倫昌	津島北高等学校
知 多	成田 稔	武豊高等学校

西三河	清水 文昭	豊田工業高等学校
東三河	中村 昭広	豊橋工業高等学校

中学生(学校・クラブ・個人)

名古屋	森 剛人	日進東中学校
尾 張	酒井 達哉	宮田中学校
西三河	細井 太郎	六ツ美北中学校
東三河	岡田 淳史	南陽中学校

小学生友の会

名古屋	榊原 聖也	森岡小学校
尾 張	今井 誠	尾西第二中学校
西三河	小林 良博	安城東部小学校
東三河	手嶋 修次	NPO法人蒲郡アスリート コミュニケーションズ

(水野 隆夫)

競技委員会

2015年度も終了し、いよいよ新しいシーズンの開幕です。2016年6月にはパロマ瑞穂スタジアムで、日本選手権がオリンピック選考大会として行なわれます。準備もこれから細かい打合せに入ります。審判の方々にはふだんの大会においても日本選手権を意識した大会運営を心がけていただきますようお願いします。

各競技会の申し込み等は、陸協ホームページで大会要項や競技注意事項をよく確認して、間違いのないようにしてください。

愛知陸協では、協会主催の大会において、新ルールの適用を原則としています。しかし一部の大会では、特別なルールを適用する事もあるので、大会要項や競技注意事項で確認をしてください。

一年を通して、愛知では国際的な大会から全国的な大会、東海大会から小学生の競技会まで幅広く行なわれています。大会には多くの競技者が出場し、それを支える競技役員・補助員によって競技が運営されています。それぞれが協力し合って、競技者がよりよい環境で競技できるようにご協力をお願いします。(榊原 茂)

クラブ紹介③ JACあつみ

JACあつみは、平成8年4月に「陸上競技における走・跳・投の運動の基本動作習得」「ジュニア競技者の育成と陸上競技の普及と底辺の拡大」を目指して発足し、今年で20年目を迎えました。旧渥美町7小学校（現在は、5小学校）を対象にクラブ員を募集しており、毎年100人前後の希望があります。4月の第1土曜日に開校式を行ない、毎週土曜日の午前9時から11時30分まで活動しています。3月の最終土曜日に修了式を行ない、1年間の活動を終えます。修了式には、1年間の練習成果を確かめるために「TAKAJI CUP」という競技会を行います。その内容は、1・2年生の部は2種混合競技（50m、走幅跳）、3・4年生の部と5・6年生の部は、3種混合競技（100m、60mH、走幅跳）を行ないます。保護者の方にも審判員をお願いし、楽しく競技会が行なわれます。

本年度行なわれた東海小学生陸上競技大会では、男子走高跳で高木翼君が優勝、男子80mHで井本樹君が6位入賞。また、11月3日に行なわれた愛知県小学生陸上競技選手権大会では、個人種目で12名が入賞（優勝2名、2位2名、3位2名、4位2名、5位1名、7位2名、8位1名）しました。リレー種目も4年混合と5年混合が入賞し、コーチ（8名）もとても満足できる結果となりました。また、本クラブの出身者のなかには、現在活躍している選手として、川口桃佳さん（岡崎学園）、清田真央さん（スズ



勢揃いしたメンバー

キ浜松AC)がいます。彼女らの活躍が、子どもたちの目標や励みになると思います。

毎週1回の陸上競技の練習を通して、他の小学校の児童と一緒に陸上競技の練習に関わることで、子どもたちは社会性が広がり、協調性を身に付けることができると思います。陸上競技の良さは、「人に負けても、自分に勝てる競技」という点にあります。ただ勝つことだけを目標にするのではなく、自分の目標をもって練習や大会に臨み、達成感を得られるように励まし指導しています。

これからも地域に根ざしたクラブチームとして、JACあつみのスタッフは、陸上競技を通して、子どもたちが心身ともに健全に成長できるよう頑張っていきたいと思えます。（森下田嘉治）

施設・用器具委員会

1. 日本選手権開催準備打合せ会議報告④

12月14日（14:00～15:45）瑞穂本陸で、第100回日本陸上競技選手権第4回全体会議が開催されました。陸連（大島部長、井上課長、山田、高橋）愛知陸協（外山、岡田、稲垣、青木）行政：愛知県（霊池、久保田）名古屋市（野嶋、根木、北川、平山、松田）教育スポーツ協会（福井、渡邊）瑞穂施設管理（伊藤、住田、岡、柴本）セレスポ（朝岡、管）のメンバーで、準備スケジュール、会場利用計画、仮設物、サブイベント等が検討されました。会場諸室、ドーピング検査室、表彰場所、招集所等はほぼ確定しました。投てき練習場や選手の動線については、今後の調整となりました。

2月8日（14:00～15:45）瑞穂本陸で、第5回全体会議が上記のメンバーとNHK（桐谷、清水、丹羽、保岡）東武トップツアー（久保地、中島）の参加で開催されました。大会要項案、競技スケジュール、広報計画、ポスター計画、座席計画案、放送計画等の話し合いが行なわれました。

地元の支援組織として、11月16日に、第100回日本陸上競技選手権大会開催支援実行委員会が、稲垣愛知陸協会長を会長、大島名古屋市教育委員会生涯学習部長を副会長として発足しました。愛知県（霊池保健体育スポーツ課長、芦沢振興部スポーツ振興課長、渡邊振興部観光振興課長、尾関観光協会事務局長）名古屋市（上田文化観光部観光推進室長、伏屋名古屋観光コンベンションビューロー観光部長、住田パロマ瑞穂スポーツパーク管理課長）愛知陸協（稲垣専務理事）が実行委員となりました。また、裏方事務局の一員として青木が参加しました。2月8日に2回目

が開催され、予算案が提示・審議されました。今後は県・市は議会審議に、名古屋市教育スポーツ協会は理事会審議になり承認される見込みです。また、2月29日に瑞穂本陸で、委託業者選定のための第1回プロポーザル選定委員会も開催されました。その委員に競技団体から青木が委嘱され参加しました。日本選手権開催まで114日となり、マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2016等と平行して、3月からは事前準備を全力で愛知陸協一丸となり汗をかく時期になりました。

その一環としてのプレイベントを開催しました。

子供たちを相手にけいこし先頭走る市川選手



来年6月の「第100回日本陸上競技選手権大会」(読売新聞社など後援)のプレイベントが23日、会場となる名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムにて行われ、2017年のロード五輪に出場した短距離の市川選手(24)が、2大会連続の五輪出場への意欲を語った。

**日本陸上選手権プレイベント
市川選手ら盛り上げる**

来年6月の「第100回日本陸上競技選手権大会」(読売新聞社など後援)のプレイベントが23日、会場となる名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムにて行われ、2017年のロード五輪に出場した短距離の市川選手(24)が、2大会連続の五輪出場への意欲を語った。

(11/24 読売新聞より)

II. 2015年度検定関係

検定員による事前指導を受けていただき、公認継続の検定に合格できるよう予算化してください。行政と地元陸上競技協会との連携が大切になります。また、各地区理事長と施設用器具委員会の競技場担当者との調整もよろしくお願い致します。

①名古屋ウィメンズマラソンコース一部変更検定(～2016.8.31)

1月22日 青木・平川・桑原

②安城陸上競技場検定(～2015.12.27)

2種→4種 2月21日 青木・平川・南

*フィールド内の芝生が天然芝から人工芝に変更され、公認投てき競技が不可になりました。

③パロマ瑞穂スタジアム一部改造検定(～2019.6.30)

1種 2月27日 青木・平川

*日本選手権に向けてフィールドの芝生の全面張り替えをしていただきました。投てき競技の計測ができるように維持管理をお願いしました。



瑞穂の芝生張り替え

④豊橋市営陸上競技場検定(～2016.3.15)

3種 3月4日 青木・南

⑤半田運動公園陸上競技場検定予定(～2016.4.21)

3種 4月予定 青木

(青木 実)

審判委員会

平成27年度の愛知陸協の行事も、各地区の審判伝達講習会を最後に無事終えることができました。各競技会の審判業務にご協力いただき、大変感謝しています。特に名古屋ウィメンズマラソンにつきましては、472名の陸協審判員をはじめ、多くの方々にご協力をいただき無事に終了することができました。本当にありがとうございました。

さて28年度には、日本陸連主催の大会が日本選手権(6月24～26日)をはじめ、全国高等専門学校体育大会陸上競技(8月24・25日)、アンダー18・アンダー20(旧日本ジュニア・ユース 10月21～23日)、名古屋ウィメンズマラソン(3月12日)と続きます。また東海地区の大会では、東海中学(8月13日)、東海選手権(8月27・28日)、東海高校新人(10月29・30日)と続きます。愛知陸協の審判員の皆様には例年になく多くの大きな大会の審判をお願いしなくてはなりません。是非ともご都合をつけてご協力くださるようお願いいたします。

今年も4月1日からのS級昇格者に、名古屋地区から高柳鉦二様、吉越明様、新見精三様、尾張地区から澤木三枝子様、西三河地区から宮川武士様、竹前正直様、畔柳久義様、北村晴雄様、東三河地区から兵藤重二様、佐野裕昭様の10名の方が陸連より承認されました。おめでとうございます。今後もご活躍を大いに期待いたします。

(小森 好治)

選手強化委員会

2016都道府県対抗男女駅伝報告

1月17日(日)・24日(日)は、愛知県にとっていや日本の陸上界にとって歴史的な日となりました。昨年女子は

トップと3秒差の4位、男子は失格という大変悔しい2日となっていました。今年は女子優勝・男子3位という目標の中、夏から合宿を重ね強化とともにチーム作りをしました。そんな中、例年と少し雰囲気は違っていたのが、スタッフだけ、選手だけということではなく、スタッフ・選手すべてが一つとなってチーム愛知が完成していたことです。女子初優勝・男子3位入賞に向けて、選手選考時点から行なわれた各選手の分析には頭が下がりました。女子チーム本番前日、選手の目標タイムがそれぞれ個人から宣言され、合計タイムは愛知県記録を上回る優勝可能なタイムでした。何をすべきか、どれくらいで走るべきか、選手たちはしっかり自覚していることを確認できた瞬間でした。

レース当日、今シーズン今ひとつ調子が上がらず悔しいレースの続く莊司麻衣選手(中京大)を、昨年の経験を買って1区に起用。調子の悪い中でも冷静かつ積極的なレース展開で、順位こそ区間20位でしたが目標としていたトップとの差20秒に迫るタイムで、2区の川口桃佳選手(岡崎学園高)へ襷を繋いでくれました。川口選手は初出場の全国高校駅伝で初入賞目前でのアンカー途中棄権という悔しい結果を、同じ京都の地で晴らす素晴らしい走りを見せ順位を5つ上げ総合15位に。3区市原和佳選手(旭南中)は、中学生の中でも全国トップクラスの選手。期待どおり伸び伸びとした走りで見せ、総合9位まで順位が上がりました。ここまで監督・駅伝強化部長にガッツポーズをさせる、作戦どおりの走りを3人がしてくれました。4区鈴木純菜選手(光ヶ丘女子高)は、高校一年生でこのチーム愛知を任せられた伸び盛りの選手。前半指示どおり少しペースを抑えた、落ち着いた入りをしていました。後半持ち前のスピードを生かし、一気に上位へと期待していましたが、残念ながら思うようにスピードが上がらず悔しい区間22位、総合15位と順位を落としてしまいましたが、優勝に必要な設定タイムから大きく遅れることはなく、健闘の走りでした。5区から追い上げ、アンカー勝負を予定していたチーム愛知は、まだまだこの後のレースが楽しみでした。5区小倉久美選手(トエネック)は、この都道府県駅伝を最後に引退することを発表していました。大学卒業後実業団チームに所属するも、チームの廃部により一時は陸上競技から引退。現所属チームの監督からの一言「もう一度頑張ってみないか」で、現役復帰を果たしました。誰よりもチーム愛知に対する思いは強く、4.1075kmを駆け抜ける彼女の姿は、短距離選手かと錯覚してしまうくらいの素晴らしいものでした。区間2位の大爆走で総合11位と望みを繋げてくれました。6区吉川侑美選手(資生堂)は、1区莊司選手の大学の先輩。先輩の頑張りに勝る走りを見せ、区間3位でトップの京都との差1分09秒という、昨年の再現かと思わせる展開となり、チーム愛知に勢いをもたらす立派な走りとなりました。7区は向井智香選手(至学館高)。全国高校総体800m・1500mの2冠、和歌山国体800m優勝の実績を持つ高校中距離界の絶対的王者。愛知の誇るエース鈴木亜由子選手と同じく、短距離から中距離へ距離を伸ばし、誰もが羨ましがれる彼女のスピードは、チーム愛知初優勝には絶対欠かせないものだとしてスタッフ一同絶賛していました。期待どおり他を寄せ付けないスピードで、区間2位と健闘し総合4位と順位を上げてくれました。しかしそれを大きく上回る大会記録で逃げる京都チーム。残り2区間でその差

は1分14秒と広がっていました。それでも、監督の口からレース前に出た「亜由子、1分30秒までなら大丈夫だな」の言葉どおり進んでいるかのようでした。ただこの言葉は選手たちをリラックスさせるためのもので、本当の目標は「トップとの差30秒で亜由子に」でした。少しでも差を縮めアンカーに渡してくれと心の中で祈りながら、8区細井裕菜選手（矢作中）を見守っていました。細井選手は全日中800m5位の実績を持つ、スピードランナー。気負うことなく冷静にレースを運び、区間5位。総合4位を維持しトップとの差1分37秒でエース鈴木亜由子選手（日本郵政）へと襷は繋がりました。この時点で監督室の雰囲気は京都の圧勝で、愛知がどこまで追い込めるかというものになっていたように思われます。実際、我々も3位の群馬を追いかけ、兵庫をかわして2位にという願いを込めていました。しかし入りの1kmを鈴木選手が3分10秒で通過し、トップの京都が3分30秒。ひょっとすると7～8km辺りで奇跡が起きるかもしれないと、駅伝部長・監督ともに動きが慌ただしくなっていました。昨年の悔しい思いを鈴木選手も経験しています。小倉選手の引退に花をそえたい、今回出場できなかった鷲見選手の思い、すべての思いを力にしている姿が、画面に映し出される鈴木選手の走りや表情から伝わってきました。実は年末・年始と、ケガから走り込みができていなかった鈴木選手は出場も危ぶまれていました。しかし、チーム愛知の選手として都道府県駅伝女子初優勝を達成するという気持ち強く持っていた彼女は、何よりも優先してこの1月17日に照準を合わせ、コンディション作りをしてくれていました。日本を代表する選手の走りは、各県のスタッフをも唸らせていました。見事に2位・3位の2人を抜き去ると、休む間もなく先頭の京都まで一気に抜き去って行きました。ここからは鈴木選手の独走で、見事念願の初優勝のゴールテープを切る瞬間を迎えました。最高の笑顔とともに、苦しかった思いが駆け巡ったのでしょうか、鈴木選手の目は真っ赤でした。



初優勝の女子チームと応援の男子チーム

その興奮から1週間、会場を広島に移しチーム愛知男子の駅伝登場となりました。会場入りした我々スタッフには、誰からともなく「女子初優勝おめでとう。アベック優勝だな」と、あちこちから声が掛かっていました。アベック優勝というものが言葉で言うほど簡単なものではないことは、この駅伝会場にいるすべての人が分かっていること。もちろん選手たちにもその声は届いており、かなりのプレッシャーであったことは容易に想像できました。チーム内ではプレッシャーとなるこの言葉は暗黙の了解で封印され、男子は男子らしく昨年の雪辱を晴らそうと声をかけ、1本の襷を繋げる喜びを楽しむようにしていました。

ただ多くの方から頂いたこの「アベック優勝」の6文字は、毎年女子駅伝で優勝したチームだけに与えられる特権なんだということ、スタッフや選手全員が分かっていたでしょう。女子にも負けず劣らずのチームワークはできあがっていました。前日観たスタッフ作成応援DVDで、しっかり女子からやる気と元気は貫っていました。あとはそれぞれのやるべきことをやるだけ。駅伝強化部長・監督の選手を送り出す時の、優しさの中に見え隠れする勝負する目の輝きからは、これから始まるリベンジレースそしてアベック優勝を達成するのに必要なパワーが、選手たちに間違いなく注入されていました。1区长谷川令選手（豊川高）を駅伝強化部長・監督とともに送り出した私は、長谷川選手の冷静な中にも闘志をみなぎらせた目の輝きに思わず身震いをしました。号砲とともに勢よく飛び出した長谷川選手は、5000m 13分台の記録を持つ、高校長距離界のトップクラスの選手。1月初めの選手選考会の時に見た彼の走りは、正直不安いっばいの走りでしたが、「1区は長谷川以外いない」と言うスタッフの言葉どおり、私の不安など吹き飛ばす走り最後の最後まで先頭グループで走り抜きました。区間14位でしたがトップとの差僅か15秒で、2区大上颯麻選手（猿投台中）へと襷を渡してくれました。大上選手は全日中3000mチャンピオン。一気に上位への期待が高まっていました。冷静な走り前半1kmを終え、中盤から後半にかけて彼の持ち味であるスピードを期待しましたが、残念ながら爆発的な走りは見られず、区間12位での襷渡しとなってしまいました。しかし総合順位は12位に上げてくれました。3区田中秀幸選手（トヨタ自動車）は、元日に行なわれたニューイヤー駅伝連覇の立役者。前日のミーティングでは区間賞宣言。スタートと共に一気に追い上げ、2位グループへと躍り出ました。8.5kmという距離をしっかりと考え、2位グループの他県の選手の状況を見ながら前半の猛追撃の疲労を回復させているかのような、憎らしいほど落ち着いたレースをしていました。残り1kmとなったところからのラストスパートで、宣言通りの区間賞で単独2位へと躍り出ました。4区三輪軌道選手（愛知高）も、田中選手と同様区間賞宣言をしていました。前半から飛ばしすぎて自滅することが多い三輪選手でしたが、この日は冷静にレースを進めていました。高校生の有力選手が集まったこの4区であったために、前半抑え気味で入った三輪選手に3位集団が追い付くのに時間は掛かりませんでした。何度もこの集団を崩そうとする他県の選手のスパートに、三輪選手は冷静に対応していました。残り1kmを迎える頃には1位のチームも吸収された1位集団という展開になっていましたが、ここで彼のスピードが一気に上がりトップに躍り出ました。区間賞で2位との差が6秒という素晴らしい走りでした。5区で待つのは同じ高校の青木祐人選手（愛知高）。昨年の先輩の悔しい思いを断ち切る、力強いガッツポーズとともに襷を繋いだ姿は、今でも目に焼き付いています。ここまで来ると青木選手も行け行けムード。チーム愛知にとって理想的な展開となっていました。冷静な走りの中にも、攻めることも忘れていない積極的なレース展開をし、区間2位で2位との差を見事に24秒と広げる彼らしい走りでした。6区で先輩を笑顔で待ち受けていたのが葛西潤選手（東港中）。非常にリラックスしたスタートを切ると、そのまま伸びやかな走り後続との差を広げていきました。区間7位の走りで、2位との差も28秒と広がってくれました。7区

学校訪問⑳ 横須賀中学校 全国中学駅伝女子県代表

今回は、今年度の県中学駅伝女子の部で優勝し、全国中学駅伝の県代表となった横須賀中学校を訪問しました。横須賀中学校の優勝に関しては、「今まで聞いたことがなかったけど、知多地区の学校が優勝したのはめでたいことだわ」という声を知多地区の陸協役員から聞きました。横須賀中学校の名は大会前にはとどろいていなかったのかもしれませんが、五人の力が揃うまでになったからには、何かしらか強さの秘訣があるはずですよ。その秘訣を探るつもりで、今回も取材しました。

取材当日の練習は、学校から場所を移してのものでした。そこは、学校からジョギングで5分ほどの所にありました。選手たちはジョギングで移動したのですが、私は顧問の泊 真由香先生のお車で移動しました。駐車場から2分ほど歩くと、練習会場の全景が目に入ってきました。見た瞬間に、私はこれだと思いました。こんなに恵まれた練習環境が学校の近くにあれば、強くならないほうがおかしいとまで思いました。それが加木屋緑地で、御雉子山という小高い山を、愛知製鋼の児玉泰介監督監修のもと、ランニングやジョギング、散歩のコースとして整備したものです。



コース案内図



急斜面

この練習会場には、練習の効率を高めるものが三つあります。一つめは、小高い山に設けられているだけに、起伏に富んでいることです。最大の傾斜は、20度を超えているのではないのでしょうか。このコースを走ってれば、大腿の力や心肺能力が自然と高まっていくように思われました。二つめは、ランニングコースが全てウッドチップを敷き詰めたものになっていることです。ふかふかとしたコースを走ってれば、多少追い込んだ練習をしても故障することが少ないように思われました。また、下腿部の力が付くようにも思われました。三つめは、麓にある平坦なコースです。木々に囲まれており、夏場の練習には最適です。以前に祖父江中学校を訪ねた時にも木曾川左岸の公園を紹介していただいたことがありますが、夏場でしたので、木々に囲まれた区画とその外では体感温度が3度ほど違うのではないかと思います。多分こども、同じように夏場に追い込んだ練習ができる場所なのだろうと思われました。泊先生も、夏場はよく下のほうで練習するとおっしゃっていました。

泊先生とお話している中で、予想外のことが一つありました。それは、一緒に見ていらっしゃる福田智之先生ともども陸上競技の経験が全く無いということです。駅伝チームを率いての全国大会出場ですから、それなりのご経験が当然おありだと思っていたのですが、全くもって意外でした。9年ほどこの企画を担当しておりますが、訪れた先の顧問の先生が陸上競技の経験がゼロというのは初めての経験でした。ですので、練習会場に恵まれている以外にも強さの秘訣があるのではないかとお話を伺いました。その中で得られたものや感じた点をいくつか挙げておきます。



ふもと 麓の林間コース

まずは、地元のクラブの存在です。東海市にはRC 東海という陸上競技クラブが存在しており、そのクラブの活動の経験者が入部してくることがあるのだそうです。今回、全国大会に出場したメンバーも、多くがRC 東海の出身者だということでした。泊先生は新任3年目ということで、「陸上競技の知識が全く無くて、生徒たちには申し訳ないと思っています。生徒のほうが陸上のことはよく分かっています」とおっしゃっていました。中学生の段階ですから、先生がおっしゃるほどのことではないと思いますが、それでもRC 東海での経験は生かされているのでしょうか。そうした経験のある現3年生が入学してきた年に、上記の加木屋緑地が完成したのです。小学校時代の経験と整備された練習環境が掛け合わされたとも言えよいのでしょうか。

そんなお話を伺いながら、そう言えばという思いが湧いてきました。それは、私が横須賀中学校に到着した時のことです。9時からの練習ということだったのですが、電車の関係で私は8時35、6分頃に到着しました。校門からグラウンドに入ってみると、グラウンドの隅には大勢の生徒たちが既に集まっていた。私よりも後に到着した部員は2、3人しかいませんでした。選手たちの意識が高いからこそだったのでしょうか。それにこんなお話も伺いました。冬場になると30分も活動ができなくなるが、そんな時には帰宅してから家の周りを走っていたりすることがあると。選手一人ひとりの意欲、意識の高さも県大会優勝の原動力だったのでしょうか。



生徒を見守る顧問の先生

ただし、この意欲、意識の高さも先生方とのやりとりの中で育まれているようにも思われました。陸上競技の経験があるとかく自分の経験を押しつけたがるものですが、お二人は、生徒の考えを引き出すことに専念されているように思われました。自分で口にしたことですから、生徒たちは自分の言葉に責任を持たなくてはなりません。これが自主性を育てているように思われたのです。また、お二人の先生と生徒たちのやりとりは陸上部顧問の分担制とも相まって力を発揮しているようにも感じました。陸上部には4人の顧問の先生がおられるのですが、このお二人は長距離陣を主に指導していらっしゃるのです。長距離陣だけとなれば人数が少なくなりますので、一人ひとりに目が届きます。行き届いた指導ができるというわけです。お二人の温かなまなざしを受けて、生徒たちは力を付けていっているのだと私は思いました。

泊先生からは、優勝チームのメンバーのうち3年生は2人だけで、選手3人と補欠2人が残っているということもお聞きしました。連覇も十分に期待されます。そうなれば、学校ばかりでなく、クロスカントリーのコースを整備した東海市としても鼻が高いだろうと思ひながら、帰途につきました。

(取材文責・写真 大西敏功)

のアンカーは山本修平選手(トヨタ自動車)。当初神野大地選手(青山学院大)を予定していたチーム愛知でしたが、度重なる故障と箱根駅伝の疲れ、そして将来を考えて無理をさせないという理由から、3区田中選手と共に元日のニューイヤー駅伝でトヨタ自動車連覇のアンカーを経験し、心身共に絶好調の山本選手の起用となりました。男子駅伝アンカーの中には山本選手を脅かす面々が揃っていたため、スタートから広島・埼玉の猛追撃を受けていました。それに反して山本選手は、後半勝負とでも言っているかのようなペース。一時は15秒差まで2位広島に追い上げられ、監督室でレースの行方を見守っていた私には、久しぶりに味わう緊張感が襲っていました。座っていることができず、数分席を外し部屋の外で深呼吸している自分がいました。そんな私の緊張を笑うかのように、エネルギーを温存していた山本選手は一気にペースアップしていました。監督室に戻って席に着こうというその瞬間、次の1kmの2位とのタイム差がスクリーンから聞こえてきました。15秒まで縮まった差が19秒に広がっていたのです。「トップとの差19秒」という解説者の声と共に、駅伝強化部長の「よし勝った」の声が今でも耳から離れません。アンカーで追い付けなければ優勝がない2位以下のチームは、スタートと共に全力で追い掛けるしかありません。山本選手はしっかりトップの利を生かし、力を温存して走っていました。手の届くところまで追い付いて、再度離されてしまった選手の疲労感はかなりなものでした。区間8位の見事な走りで、終わってみれば2位との差は31秒と広がっていました。実業団駅伝で連覇とアンカーという重圧を経験してきた山本選手は、一回りも二回りも大きくなっていくように感じました。

県の総合力を表わすと言われるリレーと駅伝。今シーズンのチーム愛知は、全国小学生大会リレーでアベック優勝、ジュニアオリンピック・国体リレーで男女入賞、そして一年の締めくくりの都道府県駅伝でアベック優勝。付け加えるならば、女子チームにおいては区間賞なしの総合力での初優勝。駅伝強化部長・監督を頭に、スタッフがそれぞれの持ち場でしっかり活躍し、そのスタッフを選手が信頼して心をつなげてきた結果だと、駅伝チームスタッフの皆さんに感謝しています。田中選手はレース後言いました。「この駅伝は中・高生のための駅伝。しっかり見て、しっかり学ぶ最高の場なんだ」と。成年選手としての立場をしっかりと理解し、期間中成年選手は固まらずに努めて中高生の中に入ってコミュニケーションを取っていたそうです。陸上教室が初めて愛知県で開催されたのが27年前。



祝 アベック優勝

強化合宿も普及要素を含みながら始めてから12年。市町村駅伝が始まって10年。思いはしっかり選手たちに伝わっています。愛知の普及・強化については、各地で開催されている講習会の折に必ず「愛知の取り組みは素晴らしい」と出てきている報告も、全国の関係者から聞いています。何より今回の駅伝チーム愛知は、全選手を愛知ゆかりの選手たちで組むことができました。これは選手強化委員会の目標として取り組んできた、「愛知で普及し愛知で強化、そして世界へ」を現実のものとする第一歩だと考えています。今後も発展させながら、続けていくべき行事であることを確信もしました。多くの方々の助けがあったの行事。感謝の気持ちは、この一年の結果に凝縮されていたと考えます。

毎年ではありますが本年度も両大会において、愛知県人会の皆様から大会期間中たくさんの激励とご厚情を頂きました。愛知陸協からも、沿道・スタンドからも熱烈的な応援を頂き、選手・スタッフ共々感激をいたしました。

大会関係各位、ご配慮いただいた所属チームの皆様方、愛知陸協応援団の皆様には、深く感謝すると共にこの場をお借りしてお礼申し上げます。来年度は追われる立場。一層の結束を図り、強化を推進して参ります。(明星 光信)

----- 県人会の夢が実現した! -----



毎年1月は、京都・愛知県人会にとって特別な月です。都道府県対抗女子駅伝の愛知県チームの皆さんがその力を発揮できるよう、総力をあげて応援に取り組んでいます。京都駅での出迎え、前日の激励会、当日の競技場や沿道での応援、そしてレース後は監督、コーチの慰労会をしています。慰労会で、レースの感想と翌年への課題を監督、コーチの皆さんと語り合うのが楽しみでした。

10年ほど前から次第に順位を上げていったのは、中学生、高校生の力の蓄積と伸びにあります。アンカーが課題でしたが5年ほど前に米田監督が、「今育っている若い力が数年後にアンカーを担える実力がつく。そのときには優勝できる」とお話になりました。その言葉どおり、昨年は3秒差の4位、今年は夢だった優勝です。今年の慰労会は選手の皆さんにも参加していただき、夢実現の祝勝会となり、大いに盛り上がりました。また、来年も精一杯応援しますので、ぜひ連覇してください。

京都・愛知県人会 副会長 野々山 宏

(写真提供: 中日新聞社)

記録・情報処理委員会

2015年に樹立した新記録等

2015(平成27年)年に県・ジュニア・高校・中学の樹立された新記録の数は次のとおりです(小学生は最高)。

<対象期間 2015年(平成27年)1月1日～12月31日>

愛知新記録(男子)	9種目延べ11種目
愛知新記録(女子)	5種目延べ7種目
愛知タイ記録(男子)	1種目
愛知ジュニア新記録(男子)	1種目
愛知ジュニア新記録(女子)	4種目延べ5種目
愛知高校新記録(男子)	2種目
愛知高校新記録(女子)	9種目延べ12種目
愛知中学新記録(男子)	2種目延べ3種目
愛知中学新記録(女子)	1種目延べ2種目
愛知小学生最高記録(男子)	2種目
愛知小学生最高記録(女子)	3種目

紙幅の関係で一般男女のみ紹介します。

○2015年に更新された記録

一般男子

100m	10.19	長田 拓也(法政大)	
		[日本学生個人選手権(平塚)]	6.14]
200m	20.69	長田 拓也(法政大)	
		[関東学生対校(日産スタジアム)]	5.17]
	20.63	長田 拓也(法政大)	
		[日本選手権(新潟)]	6.27]
	20.57	長田 拓也(法政大)	
		[日本学生対校(長居)]	9.13]
10Km	28.48	松本 賢太(トヨタ自動車)	
		[全日本実業団ハーフ(山口)]	2.15]
	28.49	藤本 拓(トヨタ自動車)	
		[全日本実業団ハーフ(山口)]	2.15]
100Km	6.42.04	高田 由基(愛知陸協)	
		[サロマ100Kmウルトラ(北見)]	6.28]
5000mW	19.34.66	西塔 拓己(愛知製鋼)	
		[ディスタンスチャレンジ(北見)]	7.12]
5KmW	20.10	及川 文隆(東洋大)	
		[全日本高島20kmW(高島)]	10.25]
10KmW	40.26	及川 文隆(東洋大)	
		[全日本高島20kmW(高島)]	10.25]
20KmW	1.21.15	西塔 拓己(愛知製鋼)	
		[IAAF競歩チャレンジ(ラコルニア)]	6.6]
4×200mR	1.24.98	中京大	
		(丹羽勇揮・児島大樹・松本優一・寺田健人)	
		[日本記録挑戦競技(住友総合)]	10.4]
砲丸投	17.85	山元 隼(中京大クラブ)	
		[アジア選手権(武漢)]	6.3]

一般女子

300m	39.15	吉田 紗弓(愛知高)	
		[全国高校選抜(長居第二)]	8.30]
400m	53.91	樫山 楓(至学館大)	
		[日本学生対校(長居)]	9.11]
20KmW	1.35.18	占部 磨美(三菱自岡崎)	
		[元旦競歩(絵画館)]	1.1]
マドレーラー	2.12.72	至学館高	

(磯部まみ・柴山沙也香・柴山亜沙美・時久彩音)

[愛知レディース(瑞穂) 7.12]

2.13.66 愛知高

(浜田奈央・清水麻央・一ノ瀬安葉・吉田紗弓)

[愛知レディース(瑞穂) 7.12]

4×400mR 3.42.40 至学館高

(柴山沙也香・時久彩音・柴山亜沙美・向井智香)

[愛知高校総体(瑞穂) 5.24]

3.41.84 至学館高

(柴山沙也香・時久彩音・柴山亜沙美・向井智香)

[日本選手権リレー(日産スタジアム) 10.24]

一般以外は、「2015愛知陸上競技記録集」をご覧ください。
(記録・情報処理委員会)

女性委員会

第34回全国都道府県女子駅伝は、鈴木亜由子選手らの素晴らしい走りでも愛知県チームが初優勝することができました。なかなか優勝できなかったこの大会でしたが、念願の優勝となり、愛知県女子チームが平成27年度を素晴らしい結果で締めくくってくれました。選手の皆さん、感動のレースをありがとうございました。今後の活躍も期待しています。

今年度の女性委員会のメンバーは、各地区や各団体の様々な分野から集め編成しました。その甲斐もあり、各地区競技会の状況や中学・高校等の大会の様子を随分把握できるようになりました。しかし、それらを女性委員会の活動に生かできていないのが現状で、次年度に向けての大きな課題と思われます。中でも審判員の参加については、特に課題が多く残されています。女性は結婚・出産・育児と家庭の問題もあって審判に参加できない時期があり、現場を離れざるを得ない状況があります。そして何よりも一度離れてしまうと戻ってきて貰えないのも現実です。女性審判員も活動しやすい現場作りをしていくことが必要だと思います。簡単ではないことですが、少しずつ声掛けからしていけたらと思います。

来年度は第100回日本選手権が瑞穂で開催されます。この大会でも女性審判員が活躍できるように、女性委員会としては協力していきたいと思っています。女性の皆さん、頑張りましょう。
(谷崎 好美)

年誌資料・広報委員会

陸協80周年記念誌訂正版

80周年記念誌の名簿以外の訂正版です。名簿については、各地区陸協理事長からもらってください。

また、他にも訂正箇所がありましたら、陸協事務局へお知らせください。

P9・263・264 愛知陸上競技協会規約 → 定款

P9・322 26年度愛知加盟団体 → 加入団体

P180・356 天皇杯 → 天皇盃

P181・356 皇后杯 → 皇后盃

P216(3行目) 100mH(マイナス0.9) ⑥ → ②

P272 細則 → 定款細則

P295・296・301 東海陸上競技連盟派遣役員

→ 東海陸上競技協会派遣役員

P303 愛知陸上競技協会支部組織
→ 四地区陸上競技協会組織

P303 支部長 → 会長

P306 ~ 319 ○○支部 → ○○地区

P357 2011 (平成 23) .1.1 (追加) トヨタ自動車初優勝
(新見 精三)

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

平成 27 年度の後半・駅伝シーズンは、名古屋地区の選手の活躍が目覚ましいものがありました。12 月実施の第 10 回愛知県市町村対抗駅伝大会では、名古屋市チームの初優勝および東浦町チームの 6 連覇は実に輝かしいものです。また、市の部では、瀬戸市の 8 位、知多市の 13 位。町村の部でも武豊町の 2 位、東郷町の 3 位、阿久比町の 4 位、美浜町の 9 位、豊山町の 10 位と素晴らしい成績でした。区間賞でも市の部では、1 区 (知多・市原)、3 区 (名古屋・池田)、4 区 (瀬戸・阪井)、5 区 (名古屋・葛西)、7 区 (瀬戸・莊司)、8 区 (名古屋・向井)、9 区 (名古屋・中川) と 9 区間中 7 区間で区間賞を獲得しました。また、町村の部の区間賞でも、1 区吉田 (東郷)、2 区西嶋 (美浜)、3 区江本 (東浦)、7 区西川 (武豊)、8 区原田 (東浦)、9 区川畑 (東浦) と 6 区間で名古屋地区の選手が活躍しました。

いずれも地元市町村の陸上関係者や行政のスポーツ課担当者の地道な指導・連携の賜物と喜んでいきます。とかく目立たない種目ですが、地元の盛り上がりを通して、市民マラソン・ランニング熱が一層高まり、この流れが引いては名古屋地区および愛知陸協の長距離レベルの更なる高揚へと繋がることを期待しています。市民の後押し・声援がとても大きいです。このパイプが、陸上競技全体の発展に繋がることを期待するものです。

同じく 12 月の全国高校駅伝 (男子) では、愛知高校チームが、厳しい愛知県と東海地区の激戦を勝ち抜いての 2 年連続の全国大会出場は、常勝三河地区から、流れを名古屋地区へ引き戻す契機となりました。名古屋地区の高校生に「やればできる」「長距離陣負けな、ガンバレ」の大声援を送りたいものです。

1 月の都道府県対抗 (女子) (男子) 駅伝は、史上初の男女ダブル優勝。監督・コーチ陣の多くは名古屋地区の指導者であり、選手も女子は莊司、市原、小倉、向井の 4 選手、男子は三輪、青木、葛西の 3 選手が名古屋地区登録選手であり、優勝に大きく貢献・大活躍してくれたことは大変喜ばしく、更なる飛躍を期待しています。

名古屋地区陸協・名古屋市陸協・知多愛日指導者協議会では、小中体連や高体連および地域の指導者の協力を得て陸上教室や練習会・大会等様々な機会を通じ、優秀選手の発掘や若いアスリートの育成、選手への還元、指導者の連携と拡充に努めています。20 年余の積み重ねが、今ようやく実り、全国大会で活躍する選手を多数輩出することができるようになりました。指導者に感謝します。

地区主催陸上教室では、毎年オリンピック選手を招いて開催しています。講師の動きを目の当たりにし、その体験

を通じ自分をより高めることができると考えてのことです。瑞穂、知多・半田会場とも予定を超える参加者があり、3 回とも大盛況のうちに終了しました。参加者の 4 月からの大いなる飛躍を期待します。中高校生には、夏の全国大会出場者へ記念のロング T シャツを渡しています。予算をオーバーするほどに手渡せることを期待しています。陸上教室の総括責任者は、今年度から可知裕行先生に交替しました。長年お世話をしていただいた山内正人先生に感謝します。残念なことに、オリンピック選手の招致に側面から尽力いただいた新帯哲也先生が 1 月末に急逝されました。愛知の枠に収まらない大きな存在でした。新帯氏のご冥福をお祈りします。

名古屋地区は、表彰規程に照らし審判員・選手 (小・中・高・大学一般実業団)・指導者の 6 部門で毎年活躍した方を、4 月最初の地区 (支部) 大会で表彰しています。この制度は、平成 15 年度から始まり今年度で 13 年目です。どの選手諸君も、受賞を誇りと励みに地区陸上の発展に貢献し、県・東海・全国へと活躍してくれています。27 年度受賞の選手諸君が、今後一層活躍されることを願っています。平成 28 年度のシーズンは間もなく始まります。審判員には、毎年地区陸上への貢献度・出席回数が多い方に、審判 T シャツを交付しています。日本選手権も名古屋市で開催されます。審判員・選手にとって輝かしい 1 年となるよう、名古屋地区陸上競技協会の大いなる発展の年としたいです。
(坂井田 醇三)

尾張陸上競技協会

尾張陸上競技教室を 12 月 19 日 (土)、1 月 9 日 (土)、2 月 6 日 (土) の 3 日間県営一宮陸上競技場で開催しました。今年度は、毎回 500 名を超す参加者があり、陸上競技場内だけでは活動が不十分となり、一部を多目的広場で実施しました。指導者間の事前連携を図り、充実した内容をこなし無事終了させることができました。

指導者の熱意で冬期トレーニングが実施され、参加者が 4 月からの競技会で大きな成果を発揮してくれることを期待しています。更に来年度に向け改善点について話し合い、よりよい実施方法を検討していきたいと考えています。

平成 27 年度を締め括る最後の事業として、第 63 回尾張駅伝競走大会を 1 月 17 日 (日) 県営一宮陸上競技場及び周辺周回コースで実施しました。昨年度よりスタート及び中継点を陸上競技場内に設けスムーズな競技会運営ができました。6 部門に 108 チーム (オープンを含む) が健脚を競い、各部門とも昨年の記録を更新し、成績面でも大きな成果を得ました。

成績は下記の通りです。

一般男子の部 (21Km)

1	ぬまちゃんず A	1.06.12
2	愛知大学	1.11.00
3	尾張クラブ	1.12.03

高校男子の部 (21Km)

1	愛知黎明 A	1.05.32
2	西春 A	1.06.48
3	愛知黎明 B	1.08.01

高校女子の部 (18.9Km)

1	愛知黎明	1.08.10
2	津島北	1.12.43
3	一宮 A	1.13.07

中学男子の部 (14.7Km)		中学女子 (14.7Km)	
1 宮田 A	48.30	1 犬山南部 A	54.34
2 木曾川 C	49.05	2 宮田 A	55.11
3 古知野	49.33	3 古知野	55.13

27年度総まとめとしての尾張陸上競技協会表彰者について
 優秀選手の表彰者 35名 (増4名)
 (小学生1名・中学生17名・高校生17名)
 優秀指導者の表彰者 6名
 (小学生指導者1名・中学生指導者1名・高校生指導者4名)

上記のとおり近年で最多人数を協会表彰することができ、大きな成果があったシーズンでした。なお、3月20日開催の尾張陸上競技協会総会で受賞者への表彰式を行いました。来年度の更なる飛躍を期待いたします。
 (小島 末広)

西三河陸上競技協会

今年度の陸上競技教室は、昨年までの会場が改修工事のため使用できず複数会場を使用し、下記の日程で実施しました。指導体制も、これまで以上の成果を期待し、より明確にしました。ブロック主任が中心となり練習計画を作成しました。教室時間も変更し、午前約4時間としました。午後は約2時間、各自で午前の復習や実戦練習に取り組む時間としました。特に午後の活動は復習のみでなく、練習に意欲的に取り組む姿勢を育む時間ともしました。中学生の午後の練習に取り組む人数と姿勢は、我々の予想を超え

るものでした。
 また、高校生の投擲教室については、名古屋地区陸協に協力をいただき同時開催で実施しました。より良い環境と条件の中で実施することができました。
 なお、選抜教室参加者で、中学・高校の地区新人戦において優秀な成績を収めた個人の選手に、西三河陸協のマーク入り T シャツを進呈しました。

(教室実施日)

	刈谷	岡崎	豊田	知多
12月12日(土)				高校投
12月19日(土)	中学短・長・跳			
12月20日(日)	高校短・長・競・跳	中学投		
1月9日(土)		中学投	中学・高校短・長・競・跳	
1月17日(日)				高校投
1月23日(土)	中高選抜短・長・競・跳			
2月13日(土)				高校投

次に、今年度の「西三河陸上競技協会表彰」を1月23日の陸上競技教室の開会式前に実施しました。今年度の全国大会入賞者に、柴田会長から表彰状と記念品が贈呈されました。受賞者は次の方々です。

ホープさん ③

古田 真也 選手 (大府高校2年)

古田真也くんは、中学校時代から中長距離を中心に活躍し、中学3年次は800mで全国中学校総合体育大会に出場しています。

大府高校入学後は、400mにも挑戦して400m・800mを中心に競技を続けていました。高校2年生の400mの目標タイムとしては49秒台を掲げていましたが、4月の大会で更新しその後は走るたびに記録が伸びました。そして「48秒台・東海大会出場」という更なる目標を掲げ意欲的に練習するようにもなりました。まさに、本人も周囲も驚く変貌ぶりでした。また、スピード練習を兼ねて出場した200mも、好記録が続いていました。

しかし、愛知県高校総体の決勝では200m・400mともに7位という非常に悔しい結果であり、本人にとっては忘れられない大会となりました。ここでの経験が彼の陸上競技に対する気持ち、練習に対する姿勢に変化をもたらし、その後の好結果への大きな原動力となったことは間違いのないと思います。



表彰台にて



東海新人大会優勝

目標を「日本ユース出場」に切り替え、標準記録を目標タイムに設定し、彼の走りの強みである後半の粘りに加えて、ペース配分やスタート技術の改善・スピード強化に取り組みました。やや時間はかかりましたが、9月の新人知多予選で標準記録突破という1つの目標をクリアして、それが自信となり、日本ユース入賞、愛知県高校新人・東海高校新人200m・400m優勝という成果を残すことができました。とくに、東海高校新人の400mの記録は47秒09という大会新記録であり、本人も納得のいく素晴らしい走りでした。

3年生となる高校最後のシーズンでは、「200m20秒台・400m46秒台」加えて「インターハイ上位入賞」を目標にしています。スプリント技術・メンタル面とまだまだ課題は多いですが、伸びる要素は大いにあります。今後も挑戦者の気持ちを忘れずに日々努力を重ね、お世話になっている先生方、ともに練習を重ねた知多地区の仲間、応援して下さる皆さんにさらに成長した姿を見せてくれるものと期待しています。
 (中島さやか)

☆日本学生陸上競技選手権大会

小林紗耶香(愛教大) 酒井 瞳味(愛教大)

☆全国高等学校陸上競技対抗選手権大会

中野 真琴(安城学園) 松本 扶弥(岡崎城西)
浅井さくら(岡崎城西) 中西 美早(岡崎城西)
兼川 乃衣(岡崎城西)

☆全日本中学校陸上競技選手権大会

鳥居 風樹(末野原) 馬場勇一郎(上郷)
大上 颯麻(猿投台) 細井 衿菜(矢作)
小笠原早矢楓(鶴城)

☆全国小学生陸上競技交流大会

山下 侑牙(岡崎 JAC) 土居 幸愛(岡崎 JAC)
澤田 幸奈(岡崎 JAC) 北田野々花(岡崎 JAC)
土居 心愛(岡崎 JAC) 藤原古都羽(岡崎 JAC)

来年度もより多くの受賞者が出ることを願っています。

最後に、今年度は新たな大会として「夏季東海学生」「全国聾学校陸上」「スペシャルオリックス」を開催しました。西三陸協の大会のみならず、全ての大会を成功裏に終えることができました。審判員の皆様はじめご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。(櫻井 一美)

東三河陸上競技協会

今シーズンを終えて

今年度は東三河陸上競技協会にとって、例年以上に充実した1年でした。私の独断で10大ニュースを作ってみました。第1位にあげたいニュースが多くてとても悩みました。

☆第1位 愛知県が都道府県対抗駅伝大会史上初の男女アベック優勝

女子では、2区川口桃佳選手(岡崎学園高)が田原出身、最終9区で大逆転劇を演じた鈴木亜由子選手(日本郵政)が豊橋出身です。男子では、東三河出身ではありませんが1区长谷川令選手(豊川高)、3区で区間賞の快走を見せてくれた田中秀幸選手(トヨタ自)と最終7区で粘りの走りを見せてくれた山本修平選手(トヨタ自)の二人が豊橋出身です。5人の活躍に、東三河が大いに盛り上がりました。

☆第2位 トヨタ自動車が全日本実業団駅伝二連覇達成

トヨタ自動車は、各区間の選手が堅実に襷をつなぎ、5区宮脇千博選手が先頭に躍り出ると、コニカミノルタとのトップ争いを6区田中秀幸選手の2年連続区間賞の走りで見せ、最終7区は新人の山本修平選手が粘り強い走りで見せ、2年連続3度目の優勝を果たしました。

☆第3位 世界陸上に3選手出場

8月22～30日に、北京で行なわれた世界陸上選手権には、鈴木亜由子選手が出場し5000mで惜しくも入賞は逃したものの途中まで先頭でレースを引っ張り、9位と大健闘しました。また、豊川高出身の長田拓也選手(法政大)は400mR、同じく鷲見梓沙選手(エバー-カエンターテインメント)は5000mに出場しました。

☆第4位 箱根駅伝連覇の青山学院で東三河出身の2選手が活躍

2年連続で花の2区を区間3位で走った一色恭志選手、6区山下りを区間2位ながらも区間タイ記録で走り、優勝を決定つけた小野田勇次選手は二人とも豊川高出身です。

☆第5位 ジュニアオリンピック陸上で中学生大活躍

10月23～25日に神奈川で行なわれたジュニアオリンピック競技大会では、小倉一心選手(南陽)が男子B100mと400mRで6位、生田奈緒子選手(本郷)と新庄理子選手(豊橋東部)が女子400mRで3位、生田選手はA200mでも5位、川島実桜選手(高師台)がC800mで6位に入賞しました。

☆第6位 夏目輝久会長が秩父宮章受章

☆第7位 田原陸上クの吉居駿恭選手が、全国小学生クロスカントリーで6区区間賞

☆第8位 豊川高校が全国高校駅伝にアベック出場

☆第9位 中学総体の男子400mで中谷竜麻選手(高師台)が6位、定盛匡哉選手(豊川中部)が8位入賞

☆第10位 全国小学生陸上競技交流大会6年男子走幅跳で、上村耕志郎選手(豊橋陸上ク)が7位入賞

最後に、来シーズンは6月に日本選手権が愛知県で行なわれます。より多くの地元の選手が、日本選手権に出場することを期待しています。そして、多くの小中高校の競技者が、地元の選手の応援と一流選手の動きを間近で見るために、瑞穂に足を運んでほしいと思います。(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

平成27年12月13日 万博記念公園特設コース(大阪)で、日清食品カップ第18回全国小学生クロスカントリー研修大会が行なわれ、愛知県からは田原陸上クラブが参加しました。

前日は、日清食品グループ陸上長距離部の講演やインスタントラーメン発明記念館見学など、盛りだくさんの内容でした。大会当日は、選手は自分の力を精一杯出し、それを指導者が熱心に支えていました。結果は10位(32.02)で、トップ10入りを果たしました。全6区間のうち、第6区の区間賞(4.47)を吉居駿恭選手が獲得し、また7位以内が2名と優秀な成績を収めました。この結果は、指導者の日ごろの指導の賜物であり、愛知県代表として高い意識で大会に参加することができたからです。大会を通して、記録や大会に臨む姿勢、考え方など、子どもたち個々の成長を強く感じることができました。愛知の陸上界をけん引していく力となってほしいと思います。

一年を通して、小学生の陸上競技力が飛躍的に伸びた年でした。来年度の日本選手権を彩り(招待リレー)、将来的には友の会からオリンピックを出せるほどに、より一層の競技力向上に尽力していきたいと考えます。



田原陸上クラブチーム

6区区間賞: 吉居駿恭選手
(佐々木博幸)

中小体連

今シーズンを終えて

●県中学駅伝 (11/14：半田)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝は、男子は江南市立古知野中学校、女子は東海市立横須賀中学校が優勝を飾りました。

全国中学校駅伝大会は12月13日に山口県のセミナーパークで行なわれました。古知野中、横須賀中ともに30位という結果でした。両チームともに愛知県の代表としてよく頑張ってくれたと思います。

県中学駅伝の開催にあたっては、今年度より知多支部の関係の皆さまに絶大なご支援とご協力をいただいています。この場を借りて厚くお礼申し上げますとともに、引き続きお力添えをいただきますよう、よろしくお祈いします。また、平成28年度からは、一部コースを変更します。今年度各学校に配付される県中学校総合体育大会実施要項冊子(全競技掲載のもの)をご覧ください、ご準備いただきますよう、お祈いします。

なお、平成28年度から全国中学校駅伝は、滋賀県の希望ヶ丘文化公園での開催となります。

●日本陸連U16 東海・北信越ブロック研修合宿

(1/30・31：静岡県・草薙)

本事業は日本陸連より補助金をいただき、今年で3回目を迎えました。平成27・28年度の2年間は、東海4県の各40名に加え、北信越ブロック(新潟、長野、富山、石川、福井)5県各30名の総計310名が参加し、短距離・ハードル・走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投の6ブロックに分かれて行ないました。

この合宿の特徴として、種目練習だけでなく、競技者としての心構えや、座学形式でそれぞれの種目について学んだり、栄養指導など必要に応じて取り入れながら進めていることがあげられます。

この合宿後、さまざまな場面で顧問の先生や参加した選手から「ヒントをつかみ、動きがよくなった」、「練習日誌を書く習慣がついた」、「校内の練習を引っ張っていけるようになった」といった内容の嬉しい声もたくさんいただきました。

また、日本海側の厳しい環境の中で、必死に取り組んでいる中学生の姿や、練習内容を工夫されている先生方と交流を深める中で、愛知県の現在の環境が非常に恵まれているということを再認識することができました。この合宿に参加した選手が、来たるシーズンで活躍することを期待しています。

なお、平成29年度の本事業は愛知県での開催が予定されています。

昨年より、日本中体連の東海ブロック長を兼務することになりました。今まで以上に、多くの先生方にお助けいただき状況となり申し訳なく思っておりますが、なんとか一年を終えることができました。感謝しております。とりわけ、平成28年度は東海中学総体の当番県でもあり、多くの先生方にお力を貸していただく年になるかと思っておりますが、今後ともご支援をいただきますよう、よろしくお祈いします。

中小体連として、引き続き「選手にとってよりよい環境

づくり」をテーマにこれからも活動していきたいと考えております。

また、日本中体連としては、前回の広報でお伝えした平成30年からの一部種目の規格変更以外にも、平成31年度以降の全中開催種目を検討する1年になります。ご意見などがございましたら、各支部の陸上競技運動部員あるいは、丹羽智行(守山東中)まで、お声をお聞かせください。

(丹羽 智行)

高体連

平成27年度を振り返って

平成27年度は愛知県高体連にとって過去数年にない素晴らしい活躍ができた年度になりました。久しぶりにインターハイ優勝者が誕生しました。至学館高校の向井智香選手の活躍は頼もしいものでした。また、至学館高校の全国総体女子総合2位も向井選手をはじめとした、総合力の証だと思えます。岡崎城西高校も女子走高跳で3名の入賞を果たし、フィールド優勝の栄誉を勝ち取りました。この2校の活躍は、愛知の活躍を象徴するものであり今後の活躍をも確信させるものです。全国総体の出場者数も男女合わせて150名に上り、過去最高を大きく更新しました。東海大会での過去の状況を考えると特筆すべき事だと思えます。静岡県勢が振るわなかったことが大きな原因であると考えますが、この勢いを来年度以降も続けていけるように、努力を続けていきたいと思えます。

高校駅伝は京都開催50周年で記念大会となりました。愛知県からは男女2校ずつが出場することができました。4校が出場できたことは素晴らしいことですが、愛知県勢としての連続入賞が途切れた年にもなりました。全国的には多くの県で1校に有望選手が集まり、大きな戦力を持った学校が増えてきました。しかし愛知県は強豪校が多数あり、愛知を勝ち抜くことが大変な状況にあります。この中で切磋琢磨し、どの学校が出場しても全国で戦えるようになってほしいと願っています。

平成30年度には東海地区に全国総体が来ます。陸上競技は三重県になり、来年度の1年生が主力です。中学生にも全国大会で優勝する選手がおり、うまくつなげられるように頑張らなくてはならないと思えます。

平成28年度が愛知県高体連にとって素晴らしい年になるように、頑張っていきたいと思えます。今後ともご協力をお願いします。

(石井 哲郎)

高体連定通部

来シーズンへ向けて

多くの定通制高校にとって、モチベーションの維持が冬季における大きな課題である。この課題は定通制に限ったことではないと思うが、定通制だけの試合で考えると、10月の秋季大会終了から6月の県大会まで試合がない。すなわち約8ヶ月も試合期間が空くのである。そして、全国大会を除けば年間で春と秋の県大会の2試合しかない。冬季だけではないが、目的意識を持って日々の練習を行なうことの難しさを感じている。ゲーム性を持たせた練習を行なうなど生徒を飽きさせず、そして前向きになる言葉掛けなど各顧問は創意工夫をこらしつつ、指導をしているのではないだろうか。



全国大会女子4×100m リレー優勝メンバー。
来シーズンも素敵な笑顔が見られますように…

試合期間が空くことについて前述したが、定通制の場合は多くの学校が全国定通大会専用の陸連登録をしている。これとは別に今シーズンは2校のみであるが春から通常の陸連登録をし、全国大会だけでなく多くの公認競技会に出場してきた。

何よりも生徒の強い意欲が第一であり、関係各位の理解も必要であるが、多くの生徒に定通の試合だけでなく、その枠を超えて公認競技会等に出場し経験を積んでほしいと思う。全国定通大会だけを目標とするのではなく、月に一度でも出場できる大会があれば、自己記録更新を目標に練習に取り組める生徒も増えるであろう。特に日々継続してコツコツと練習に取り組んでいる生徒がいるのであれば尚更である。

来シーズンは全国大会総合優勝の勢いを継続すると共に、生徒がより多くの大会に出場し、陸上競技を通じて、喜び・楽しさ・難しさ・悔しさなどを学び、経験を積めることを願っている。
(野口 武則)

学 連

— 2015年駅伝大会の報告と2016年シーズンの展望 —

2015年12月6日、知多半島を舞台に第77回東海学生駅伝・第9回東海学生女子駅伝が開催された。男子は、翌年の出雲選抜駅伝の出場権を争うレースとして位置づけられており、愛知工業大学と岐阜経済大学がレース終盤まで優勝を争う展開になった。その結果、昨年11月の全日本大学駅伝東海地区代表校である岐経大を最終区間で逆転した愛工大が4年ぶり10回目の優勝となった。女子では、名城大学が他のチームを寄せ付けない圧巻のレース展開により、9年連続9回目の優勝を収めた。

同月30日、学生駅伝シーズンを締め括る2015全日本大学女子選抜駅伝競走が静岡県富士山本宮浅間大社前～富士総合運動公園陸上競技場までの全7区間43.4kmで開催された。レースは、昨年10月の全日本大学女子駅伝を制した立命館大学が優勝し、大会3連覇を成し遂げた。関東や関西地区の大学の活躍が目立つ昨今の学生長距離界ではあるが、東海地区からは名城大学が2位に入った。立命館大と同様に名城大も全選手が1けた順位で走る安定した区間成績を残した。また、単独チームとしての出場が叶わなかった荏苒麻衣選手(中京大4)が第4区にて区間2位の好走をし、東海・関西・中四国・九州地区の選手によって結成された西日本選抜チームの10位に貢献した。

2016年のシーズンは、オリンピック代表選考会となる第100回日本選手権が愛知県を会場に開催される。東海地

区の現役大学生4名が代表となった2012年ロンドン大会と比較すると、現在の競技レベルでは厳しい状況である。しかし、トラックシーズンを振り返ると日本インカレや日本ジュニア優勝者の中には、大学1、2年生が多く、来年のユニバーシアードや世界選手権の代表への期待ができる。本年の日本選手権では、東海地区の学生はもちろん、愛知県出身の大学生のエントリーも多いであろう。中学や高校時代の恩師の前でその勇姿を披露してくれることを願う。
(黒須 雅弘)

実業団

一年を振り返って

実業団の一年を振り返って見ますと、まずトヨタ自動車の男子全日本実業団駅伝(ニューイヤー駅伝)の連覇(3度目の優勝)があげられます。5区宮脇選手で首位に躍り出て、そのまま最終7区まで首位の座を許さない圧倒的な強さでの連覇になりました。



表彰式後の選手・監督



アンカー山本選手

女子の全日本実業団駅伝(クィーン駅伝)では、豊田自動織機5区(10Km)で区間新記録を記録した横江選手が4位から2位に上がり、アンカーの林田選手が2位を守り切り、昨年の4位から2位へと躍進しました。



4→5区のタスキリレー アンカー林田選手の2位フィニッシュ

一般種目では、2月にトヨタ自動車の山本聖途選手が海外の室内陸上棒高跳において5m77の室内日本記録を樹立しました。オリンピックイヤーの幸先よいスタートを切り、リオ五輪をぐっと手元に近づけました。

他にも五輪標準記録を突破した選手もあり、6月の瑞穂競技場での最終選考となる日本選手権が楽しみになりました。



5m77の室内日本新

(中村 博之)

マスターズ陸上

平成27年度も終わりを迎えようとしています。愛知マスターズ連盟は、昭和61年度に会員39人をもって創立され、今年度は記念すべき30周年を迎えたところです。創立される以前は、個人で日本マスターズ連合に登録されていました。

創立後の会員数は、平成元(1989)年度に104人、平成6(1994)年度に201人となりましたが、その後は伸び悩みました。平成21(2009)年度に340人となりこの間は15年かかりましたが、平成27年度は423人となり400人を突破しました。この間6年で増加速度が速くなっています。

このような増加傾向を再確認し、一層、新たな飛躍への第1歩として30周年記念式典・祝賀会を平成28年1月23日(土)名古屋駅前のキャスルプラザホテルで開催しました。鴻池日本マスターズ連合会長、稲垣愛知陸協会長はじめ60人の方々の出席をいただきました。この式典を契機に、これまでの30年を土台とした新しい愛知マスターズ連盟がスタートしたのではないかと思います。

愛知マスターズ連盟では、2年前から全日本マスターズ駅伝競走大会の誘致を計画していましたが、会場の都合で見合わせていました。2年後の大会には使用可能となりましたので、平成30年度(2018年度)の開催に向けて準備を始めたいと思います。

近年は、経費の負担、開催場所、開催時期等の問題もあり、参加チームが減少してきています。当初はテレビ中継されており、経費面では選手の負担もなく出場していました。しかし、スポンサーが降りてからは、テレビ中継もなく経費の支援もなくなり、参加チームが減少しています。

このようなことから、テレビ中継は無理としても、インターネットを通して動画を配信し、少しでも選手や国民の関心が高まり、選手が出たいというステータスの高い大会にしていきたいと考えています。

今年度の全日本マスターズ駅伝競走大会は、平成28年3月20日に滋賀県野洲市で開催されますが、実業団のニューイヤ駅伝でのトヨタ自動車の優勝、日本陸連の都道府県対抗駅伝の男女初のアベック優勝に負けないよう、マスターズ駅伝でも優勝を狙っていきます。次号に朗報をお届けできればと思います。(佐野 昭二)

OB・OG会



懇親を深めた面々

平成28年の新年懇親会は、1月20・21日の一泊二日で蒲郡市の蒲郡荘で開催いたしました。当日未明から降った雪の影響で警報が発令された地域もあり、参加者の足が心

配されました。しかし午後の集合時間には29名全員が無事集まり、大いに懇親を深めることができました。特に、都道府県対抗女子駅伝での「愛知県優勝」の朗報に盛り上がり、週末の男子でも「大いに期待が持てる」など話題が尽きませんでした。

今回の企画は東三河地区の皆さんのおかげで盛会のうちに終了しました。ありがとうございました。

今後も新会員募集を進めながらお集まりいただく企画を立ててまいります。ぜひご参加をお待ちしております。

(水野 久)

競技会報告

第16回中部実業団陸上競技選手権大会 兼 多治見フェスティバル

2016年10月12日(月)

多治見市運動公園星ヶ台競技場 本県3位入賞のみ

男子

(GR: 大会新記録)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	3	中野 弘幸	安城中部小教	10.69
200m	2	中野 弘幸	安城中部小教	21.39
400m	2	長谷川 慎	トヨタ自動車	48.36
	3	阿部 誉史	三菱自動車岡崎	50.10
1500m	2	辰巳 慶宏	TPAC	3.58.22
10000m	1	ヒラム・ガティア	トヨタ自動車	27.45.36
	2	ダニエル・キブケイ	トヨタ紡織	27.53.19
	3	バトリック・ムワカ	愛三工業	28.01.39
110mH	1	吉村 健吾	アルベン	15.00
	2	石井涼太郎	白寿生科学	15.22
	3	柏原 裕士	名古屋市立一色中教	15.23
400mH	3	大内 謙吾	トヨタ自動車(本社)	54.29
5000mW	1	西塔 拓己	愛知製鋼	20.02.92 GR
	2	大坪 鷹人	アルベン	22.30.73
4×100mR	2	原口 直也 竹内 智昭 中島 勇介 富成 仁	豊田自動織機	43.20
走高跳	1	加藤 紀一	makita	2.01
	3	堀川 竜正	豊田自動織機	1.95
棒高跳	2	酒井 聖史	豊田合成	2.60
走幅跳	2	木村 友紀	春日井市立中部中教	7.11
三段跳	2	木村 友紀	春日井市立中部中教	14.98
	3	平尾亮一郎	ゲンゼスポーツ	14.80

男子一般

種目	順位	氏名	所属	記録
砲丸投	1	石井 健史	三菱重工名古屋	13.80
円盤投	2	山形 洋平	豊田市立逢妻中教	47.00
	3	久保 博規	JFEチュービック	44.90
ハンマー投	1	久保 浩司	名古屋大谷高教	63.02
	2	丹生 将稔	JR 東海	55.52

女子

種目	順位	氏名	所属	記録
400m	3	大谷友梨恵	加藤建設	1.00.36
3000m	1	小倉 久美	トーエネック	9.38.77
	3	関 真里奈	愛知電機	9.56.44
400mH	1	大谷友梨恵	加藤建設	1.01.45
5000mW	3	長田 彩果	大見工業	24.51.96
走高跳	2	樋口明日美	中央高教	1.55
	3	石飛 沙織	トヨタ自動車(本社)	1.55
走幅跳	2	大賀 理加	トヨタ自動車(本社)	5.63
三段跳	2	久世由香里	天白高教	11.53

- ④阪井 空(瀬戸) ④高橋 佑(幸田)
- 平泉 真心(みよし)
- ⑤葛西 潤(名古屋) ⑤古田 拳也(大口)
- ⑥吉居 駿恭(田原) ⑥水野 陽登(幸田)
- ⑦荘司 麻衣(瀬戸) ⑦西川かりん(武豊)
- ⑧向井 智香(名古屋) ⑧原田 采奈(東浦)
- 鈴木 純菜(岡崎)
- ⑨中川 智春(名古屋) ⑨川畑 憲三(東浦)

モリコロ賞
市の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	瀬戸	20	8	12	1.35.43
1	春日井	29	17	12	1.38.00
3	みよし	24	14	10	1.37.33

町村の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	武豊	7	2	5	1.39.35
2	蟹江	8	5	3	1.42.13
3	設楽	9	8	1	1.43.07
3	大治	12	11	1	1.45.54
3	飛鳥	14	13	1	1.51.07
3	東栄	15	14	1	1.51.44

第55回中部実業団対抗駅伝

2015年11月15日(日)
コース:道の駅伊良湖港~はなとき通り 7区間83.5km
(※今年度4区で変更あり)

成績(本県分のみ)

- 1 トヨタ自動車A 4.06.15
(田中秀幸・松原健太・ヒラム ガディア・井上翔太
大石港与・早川 翼・窪田 忍)
- 2 愛知製鋼 4.11.08 6 中央発條 4.14.37
- 4 トヨタ紡織 4.12.43 7 トーエネック 4.15.15
- 5 愛三工業 4.14.21 9 三菱自動車岡崎 4.34.13

- 区間賞 1区 早川 翼(トヨタ自動車A) 36.39 区間新
2区 ヤシン ハッサン(中央発條) 21.35
3区 窪田 忍(トヨタ自動車A) 33.10
4区 大石港与(トヨタ自動車A) 49.25
5区 井上翔太(トヨタ自動車A) 37.44
6区 田中秀幸(トヨタ自動車A) 27.12
7区 田口裕弥(トヨタ紡織) 40.24

第10回愛知県市町村対抗駅伝競走大会
2015年12月5日(土) 愛・地球博記念公園 9区間28.7km

順位	市の部		町村の部	
	チーム	タイム	チーム	タイム
1	名古屋	1.30.49	東浦	1.36.45
2	豊田	1.31.04	武豊	1.39.35
3	岡崎	1.31.56	東郷	1.40.57
4	豊橋	1.32.25	阿久比	1.41.55
5	田原	1.34.04	蟹江	1.42.13
6	豊川	1.34.40	大口	1.42.18
7	西尾	1.35.06	幸田	1.42.42
8	瀬戸	1.35.43	設楽	1.43.07
9	刈谷	1.35.44	美浜	1.43.07
10	江南	1.35.58	豊山	1.45.05

区間賞(○数字は区間を示す)

市の部

- ①市原 和佳(知多)
- ②原嶋 溪(豊田)
- ③池田 昌雄(名古屋)

町村の部

- ①吉田 彩乃(東郷)
- ②西嶋 雄伸(美浜)
- ③江本 悟司(東浦)

第77回東海学生駅伝対校選手権大会

2015年12月6日(日) コース:知多半島一周 7区間63.5km

男子成績(本県分のみ)

- 1 愛工大 3.19.52
(加藤 慧・松井駿佑・長谷川士朗・石川竜治・
唐澤研太・生川智章・吉田新規)
- 3 名古屋大 3.22.01 4 中京大 3.22.29

- 区間賞 4区 高柳佳恰(中京大) 26.22
5区 唐澤研太(愛工大) 33.21
6区 生川智章(愛工大) 17.26
7区 吉田新規(愛工大) 38.14

第9回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2015年12月6日(日) コース:知多半島半周 5区間26.6km

女子成績(本県分のみ)

- 1 名城大 1.28.02
(青木 和・西弥寿子・湯澤ほのか・松浦佳南・
赤坂よもぎ)
- 2 中京大 1.29.50 5 名古屋大 1.37.09
- 3 愛教大 1.34.22 6 至学館大 1.38.13
- 4 東海学園大 1.36.44

- 区間賞 1区 青木 和(名城大) 11.31
2区 西弥寿子(名城大) 13.30
3区 荘司麻衣(中京大) 18.14
4区 松浦佳南(名城大) 16.05
5区 赤坂よもぎ(名城大) 27.59

2015年駅伝カーニバル

2015年12月13日(日) 愛・地球博記念公園3km周回コース

成績

男子一般 (5区間 21km)

1 名古屋大	1.09.05	(福田拓弥・飯田康平・柴田雄斗・岸田裕也・森長真言)
2 愛知大	1.10.46	5 南山大 1.13.14
3 東海学園大	1.11.24	6 トヨタ自動車 1.17.05
4 愛知教育大	1.11.37	

区間賞	1区	加藤 聡 (トヨタ自動車)	19.07
	2区	島田拓弥 (東海学園大)	20.01
	3区	津田耕平 (愛知教育大)	9.21
	4区	岸田裕也 (名古屋大)	9.04
	5区	重田真稔 (東海学園大)	9.22

男子高校 (5区間 21km)

1 西春	1.08.26	(久田雅人・佐野昌幸・寺沢 稔・後藤瑞樹・平林大典)
2 豊橋南	1.08.31	3 惟信 1.08.59

陸上競技場めぐり⑨

ウェーブスタジアム刈谷

スタンド屋根付き・大型LED表示盤の「ウェーブスタジアム刈谷」

「ウェーブスタジアム刈谷」は、刈谷市総合運動公園多目的グラウンド(平成5年サッカー場)を平成11年に改修し第3種公認全天候型競技場として完成、その道のりは長い長いものでした。

紆余曲折! 40余年

競技場建設は苦難の連続で、用地確保が300mのトラックとか、建設予定地が阻止や妨害にあたり、5万人サッカースタジアム建設が浮上するなど社会環境の波に押しつぶされながら何度も要望書や陳情を行なうも、事態は一向に具体化されず幾度も暗礁に乗り上げてきました。

その間、市内の競技会は400mトラックのある刈谷高校や主にデンソー、後にトヨタ車体のグラウンドをお借りして、トヨタ系各社陸上部の協力でコース整地、ライン引き、簡易トイレ設置や備品確保・準備をして、選手が伸び伸び競技ができるよう陸上競技の盛り上げに努力しました。

昭和40～50年代に全盛であった全豊田総合競技大会が平成7年で終了となり…陸上競技も競技スポーツから市民スポーツに環境が一変し、当連盟も市民参加型のマラソン・ジョギング・駅伝大会を開催、また小・中学校へ出前指導、模範演技をするなど陸上競技の底辺拡大に取り組みました。

平成6年、ようやく「わかしゃち国体」を機に多目的グラウンド改修の灯りが見え、昭和30年市レクリエーション協会の9団体が総合運動施設の陳情以来、陸上連盟の諸先輩方の夢であった「第3種公認全天候型陸上競技場(陸上連盟は第2種を要望)」が約半世紀を経て平成11年に完成。早速市内の小、中学校や刈谷陸協主催の競技会、公認では愛知マスターズや西三河陸協主催の各種競技会が行なわれています。その後平成16年から大改修があり(スタンド全屋根付き、車イス見学席など)ゆったり感のある施設になりました。更に平成27年に大型表示盤が磁気反転式からLEDに改修され、昨年は全国聾学校陸上競技大会も行なわれ、選手や観客に喜ばれております。

「夢と感動を与えられる競技場」を目指します!

当施設の特徴の一つに陸上競技の経験を生かした公認審判員が常駐していることが挙げられます。利用者の立場になって安心、安全をモットーに器材の使い方、目で見えてわかる管理などサービスの向上に努めています。

また、未来のアスリートを目指す子供の陸上教室や高齢者のウォーキング教室を行ない、仕事を終えてから20時30分までランニングができる「ナイトラン」も実施、実業団トップアスリートも利用して幅広い層に人気を得ています。

今後も、市、市民、地域と協調し「刈谷市の名所」の一つとして子供たちに夢と感動を与えるスタジアムを目指し「無くてはならない施設」となるように努力します。

*ウェーブスタジアム刈谷の概要(平成19年度から指定管理者(民間)が管理)

所在地: 刈谷市築地町荒田1 刈谷市総合運動公園内

平日個人利用: 9時～20時30分

陸上競技会(件・年): 公認8～10件 非公認13～15件

施設 ①客席(人): メインスタンド(屋根付き) 2602 芝生 1400
 ②フィールド芝生: 夏芝と冬芝を採用、一年中「緑のジュウタン」
 ③照明塔: 8基
 ④大型表示盤: LED採用映像、文字表示

主な設備 ①電気スタート

・備品 ②写真判定装置

③運営システム NANS

④光波測定装置(幅跳び)



(澤辺 泉二)

4 豊明	1.09.47	6 豊橋工	1.10.57
5 千種	1.10.54		

(前田佳奈美・杉江風花・前田友美菜・大村有香・水谷怜愛)

区間賞	1区	森下滉太 (豊橋南)	19.19
	2区	梶川由稀 (惟信)	19.10
	3区	加藤豪起 (豊橋南)	9.33
	4区	服部拓実 (千種)	9.19
	5区	川瀬勝寛 (豊明)	9.11

女子一般高校 (4区間 15km)

1 光ヶ丘女子 A	52.54		
(高橋未奈・岩田奈央・加藤遥香・佐光菜々子)			
2 愛知教育大 A	55.15	5 岡崎城西高	57.11
3 千種高	55.42	6 名古屋大	58.05
4 至学館高	55.44		

区間賞	1区	鈴木純菜 (光ヶ丘女子 A)	20.47
	2区	津野 優 (光ヶ丘女子 A)	10.34
	3区	富田明日香 (光ヶ丘女子 A)	10.37
	4区	佐光菜々子 (千種高)	10.43

男子中学 (4区間 12km)

1 AC一宮	39.19		
(藤井正斗・鶴飼雄矢・櫻井柊也・松本康汰)			
2 矢作 A	39.23	5 六ツ美 A	40.07
3 竜海 A	39.43	6 新香山 A	40.16
4 竜南 A	40.02		

区間賞	1区	宇都木秀太 (矢作 A)	9.24
	2区	瀬筒智哉 (矢作 A)	9.54
	3区	梅村秀忠 (六ツ美 A)	9.59
	4区	松本康汰 (AC一宮)	9.44

女子中学 (4区間 12km)

1 矢作 A	44.56		
(下平真穂・細井裕菜・純浦美桜・福井 藍)			
2 六ツ美北 A	45.19	5 新香山 A	46.55
3 竜海 A	45.35	6 翔南 B	46.58
4 葵 A	45.59		

区間賞	1区	浦野真由 (六ツ美北 A)	10.45
	2区	細井裕菜 (矢作 A)	10.29
	3区	純浦美桜 (矢作 A)	11.14
	4区	繁原ひなの (葵 A)	11.24

第23回全国中学校駅伝大会

2015年12月13日(日)
山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース
男子の部 (6区間 18km) 女子の部 (5区間 12km)

男子成績 (本県分のみ)

第30位	江南市立古知野	59.02
(堀江 暁・米谷悠希・永谷連太郎・磯野陽太・三輪俊太・大澤龍平)		

女子成績 (本県分のみ)

第30位	東海市立横須賀	43.29
------	---------	-------

第35回全日本実業団対抗女子駅伝

2015年12月13日(日)
松島町文化観光交流館前～仙台市陸上競技場(宮城コース)
(6区間 42.195km)

成績 (本県入賞分のみ)

第2位	豊田自動織機	2.15.15	NGR
(山本菜緒・福田有以・沼田未知・アン カリンジ・横江里沙・林田みさき)			

区間賞	5区	横江里沙	32.15 (区間新)
-----	----	------	-------------

第18回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

2016年12月13日(日)
万博記念公園特設コース (大阪) 6区間 9.0km

成績 (本県分のみ)

第10位	田原陸上クラブ	32.02
(萩原さや・横江晴貴・萩原さら・中村悠人・増山陽菜・吉居駿恭)		

区間賞	6区	吉居駿恭
-----	----	------

第27回全国高校駅伝 (女子)

2015年12月20日(日)
西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

成績 (本県分のみ)

第10位	豊川	1.09.31
(猿見田裕香・中森紗南・松井優実・瀧 紋奈・宮永光唯)		

DNF 岡崎学園

第66回全国高校駅伝 (男子)

2015年12月20日(日)
西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

成績 (本県分のみ)

第17位	豊川	2.05.53
(長谷川令・松原佑弥・ニコラス キプリモ・服部雅也・山本起弘・羽田智哉・深澤空良)		
第26位	愛知	2.06.26

第47回元旦競歩・長距離競技会

平成28年1月1日(金) 瑞穂公園陸上競技場・付設長距離競歩路

成績 (太字は愛知登録)

一般男子 20km 競歩

1	尾崎 雄大 (トヨタ自動車)	1.56.50
2	今川 智博 (愛教大ク名)	2.00.27

一般男子 10km 競歩

1	樋渡 雄登 (愛教大)	44.52
---	-------------	-------

- 2 岩崎 弘頌 (新潟大) 48.38
- 3 古部 大地 (名城大) 50.28

高校男子 10km 競歩

- 1 持田 顕人 (千種) 44.37
- 2 林 大登 (高岡第一) 45.39
- 3 鈴木 智大 (明和) 45.39

一般女子 20km 競歩

- 1 五藤 怜奈 (中部学院大) 1.37.10

一般女子 10km 競歩

- 1 上野 侑香 (日本陸送) 48.19
- 2 占部 磨美 (三菱自岡崎) 54.47
- 3 対馬 怜良 (関西外国語大) 55.58

高校女子 5km 競歩

- 1 西口 菜帆 (一宮) 26.16
- 2 門脇 実里 (大府東) 26.18
- 3 柴田 朋佳 (長良) 27.26

一般大学男子 10000m

- 1 永山 周輝 (近畿大) 33.17.47
- 2 大木 恒夫 (チーム走る男) 36.46.96
- 3 浦 広樹 (川崎市陸協) 36.54.75

高校男子 10000m

- 1 村瀬 巧夕 (愛工大名電) 32.44.18
- 2 佐野 昌幸 (西春) 33.57.30
- 3 野田 貴太 (愛産大三河) 34.16.92

男子中学 3000m

- 1 近藤 亨 (城北) 9.18.83
- 2 中原 宙 (愛知陸協) 10.07.96
- 3 岡田 慶輝 (AC一宮) 10.36.35

一般女子 10000m

- 1 五島 汐梨 (愛教大) 36.59.34
- 2 中山あさひ (一北陸上クラブ) 38.48.65
- 3 中山 淳子 (愛教大クラブ) 40.53.44

高校女子 10000m

- 1 尾白 真奈 (星翔) 38.24.19
- 2 片原 歩香 (星翔) 38.54.98
- 3 水野 花 (済美) 41.12.30

女子中学 3000m

- 1 尾崎 みわ (幡豆) 11.08.89
- 2 山口奈緒子 (吉田方) 11.51.98
- 3 印貢 萌笑 (吉田方) 13.16.59

区間 (距離)	選手	時間	区間成績	通過順位
第1区 12.3km	早川 翼	35.33	14位	14位
第2区 8.3km	ジョセフ カマシ	22.53	10位	9位
第3区 13.6km	大石 港与	38.25	3位	4位
第4区 22.0km	窪田 忍	1.03.09	2位	2位
第5区 15.8km	宮脇 千博	47.29	3位	1位
第6区 12.5km	田中 秀幸	37.54	1位	1位
第7区 15.5km	山本 修平	46.52	2位	1位

区間賞 6区 田中秀幸 (トヨタ自動車) 37.54
他に愛知製鋼、愛三工業、トヨタ紡織、中央発條、トーエネックが出場。

第34回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会
2016年1月17日(日) 京都西京極陸上競技場発着
9区間 42.195km

総合 愛知 1位 (7年連続入賞) 2.16.02

区間 (距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 6km	荘司 麻衣	中京大	19.45	20位	20位
第2区 4km	川口 桃佳	岡崎学園高	12.49	14位	15位
第3区 3km	市原 和佳	旭南中	9.25	5位	9位
第4区 4km	鈴木 純菜	光ヶ丘高	13.40	22位	15位
第5区 4.1075km	小倉 久美	トーエネック	13.16	2位	11位
第6区 4.0875km	吉川 侑美	資生堂(F)	12.57	3位	5位
第7区 4km	向井 智香	至学館高	12.36	2位	4位
第8区 3km	細井 裕菜	矢作中	10.04	5位	4位
第9区 10km	鈴木亜由子	日本郵政(F)	31.30	2位	1位

F: ふるさと選手

第21回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会
2016年1月24日(日) 広島市平和記念公園前発着
7区間 48.0km

総合 愛知 1位 2.20.12

区間 (距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 7km	長谷川 令	豊川高	20.19	14位	14位
第2区 3km	大上 颯麻	猿投台中	8.54	12位	8位
第3区 8.5km	田中 秀幸	トヨタ自動車	24.39	1位	2位
第4区 5km	三輪 軌道	愛知高	14.17	1位	1位
第5区 8.5km	青木 祐人	愛知高	24.34	2位	1位
第6区 3km	葛西 潤	東海中	8.58	7位	1位
第7区 13km	山本 修平	トヨタ自動車	38.31	8位	1位

区間賞 3区 田中秀幸 (トヨタ自動車) 24.39
4区 三輪軌道 (愛知高) 14.17

第60回全日本実業団駅伝

2016年1月1日(金) 群馬県庁発着 7区間 100.0km

成績 (本県入賞のみ)

- 第1位 トヨタ自動車 4.52.15

第38回読売犬山ハーフマラソン

2016年2月28日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース

(写真提供：読売新聞社)



引退前に笑顔のフィニッシュ 犬山城を背に約1万人が走る

第38回読売犬山ハーフマラソンが犬山市の内田防災公園発着とする日本陸連公認コースで開かれました。ハーフマラソンと10キロの計14部門に過去最多の9049人が出場し、8557人が完走しました。

ハーフマラソンの陸連登録男子の部はトーエネックの河合代二選手が1時間3分21秒で制し、同女子でもトーエネックの小倉久美選手が1時間13分43秒で優勝。10キロの陸連登録男子は中央大の竹内大地選手が30分8秒、同女子は小島プレスの高木明日加選手が33分49秒で優勝しました。

大会成績結果(太字は愛知登録)

登録ハーフ男子

1	河合 代二 (トーエネック)	1.03.21
2	西川 凌矢 (トーエネック)	1.03.27
3	濱野 秀 (立命館大学)	1.03.35
4	吉村 直人 (愛知製鋼)	1.03.47
5	井上 裕彬 (トーエネック)	1.03.56
6	高月 智生 (駒澤大学)	1.04.05

登録ハーフ女子

1	小倉 久美 (トーエネック)	1.13.43
2	浅野 里奈 (愛知電機)	1.14.42
3	河村奈津紀 (トヨタ SC)	1.18.44
4	間瀬 彩奈 (岐阜大学)	1.20.59
5	天野 美絵 (舞鶴クラブ)	1.21.09
6	佐野 亜弓 (元気アップこもの RC)	1.23.46

登録10km男子

1	竹内 大地 (中央大学)	30.08
2	竹内 颯 (NTN)	30.12
3	堀尾 謙介 (中央大学)	30.32
4	蛭田 雄大 (中央大学)	30.45
5	外岡 拓磨 (NTN)	30.50
6	白羽根勇太 (TPAC)	30.57

登録10km女子

1	高木明日加 (小島プレス)	33.49
2	渡邊 喜恵 (スズキ浜松 AC)	34.59
3	山本 彩乃 (小島プレス)	35.13
4	榊原 美希 (スズキ浜松 AC)	36.20
5	服部 千秋 (愛知教育大学)	36.22
6	富田 光江 (あいち健康の森走遊会)	37.16

名古屋ウィメンズマラソン

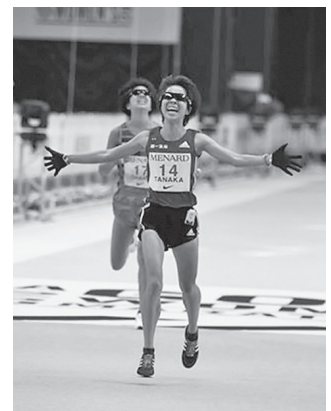
平成28年3月13日(日) ナゴヤドーム発着

(写真提供：中日新聞社)



約2万人が一斉にスタート

今年もギネス記録更新の1万9607人が出走した女子だけのマラソンが行なわれました。リオ・オリンピックを賭けて最後まで感動的な熱戦が繰り広げられました。ホイールチェアマラソン(クォーター)、マラソンフェスティバルのハーフ、クォーターなども、とても充実した大会となりました。関係者のご協力に感謝いたします。



リオをかけたデッドヒート

ウィメンズマラソン(エリートの部)

1	ユニスジェブキルイ・キルワ (バーレーン)	2.22.40
2	田中 智美 (第一生命)	2.23.19
3	小原 怜 (天満屋)	2.23.20
4	清田 真央 (スズキ浜松 AC)	2.24.32
5	岩出 玲亜 (ノーリツ)	2.24.38
6	桑原 彩 (積水化学)	2.25.09
7	竹地 志帆 (ヤマダ電機)	2.25.29
8	ベテレハム・モジェス (エチオピア)	2.26.36

ホイールチェアマラソン(クォーター)

1	土田和歌子	24.15
2	喜納 翼	27.51
3	安川祐里香	30.07

愛知選手権女子マラソン

平成28年3月13日(日) ナゴヤドーム発着

1	沼田 未知 (豊田自動織機)	2.27.27
2	小倉 久美 (トーエネック)	2.48.05
3	河村奈津紀 (トヨタ SC)	2.49.52
4	富田 光江 (あいち健康の森走)	2.54.26
5	中村麻季子 (FINDOUT)	2.56.51
6	兼松 藍子 (Run up)	2.57.02

名古屋シティマラソン
平成28年3月13日(日) ナゴヤドーム発

Table with 3 columns: Category (e.g., ハーフ男子), Rank, Name, and Time. Lists results for various marathon categories.

- ④都道府県駅伝優勝祝賀会について
⑤各専門委員会報告
⑥各関係団体からの報告
⑦その他

(水野 隆夫)

お く や み
長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)
逝去者氏名 逝去年月 支部名
佐野 秋道 27・3 名古屋
新帯 哲也 28・1 名古屋
谷川 安和 28・2 尾張

理事会等会議報告

○12月理事会 27年12月9日(水)18:00 教育会館

1 協議事項

- ①全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝の選手選考について
②各種栄章候補者について
③愛知県体育協会被表彰者について
④審判員昇格候補者について
⑤平成28年度競技会等の日程(案)について
⑥その他

2 報告事項

- ①各種大会結果報告
②陸連関係会議
・全国区域技術役員会議
・全国強化責任者会議
・全国普及育成担当者会議
③各専門委員会報告
④その他

○1月理事会 28年1月27日(水)18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成28年度競技会等の日程について
②マラソンフェスティバルについて
③読売犬山ハーフマラソンについて
④第100回日本選手権について
⑤その他

2 報告事項

- ①各専門委員会報告
②各関係団体からの報告
③その他

○2月理事会 28年2月19日(金)18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成28年度競技会等の日程について
②その他

2 報告事項

- ①マラソンフェスティバルについて
②読売犬山ハーフマラソンについて
③第100回日本選手権について

栄章

おめでとうございます

平成27年度愛知県体育協会表彰

日時 平成28年3月17日(木) 午後3時30分
場所 ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

・功労賞

小川真一郎 鈴木政男

・優秀選手賞

(国際競技会優秀成績)

山本聖途 山元 隼 市川華菜 沼田未知 長田拓也
一色恭志 向井智香 木下博貴

(公認日本記録樹立)

市川華菜 山本聖途

(国民体育大会優勝)

向井智香 澤井萌奈

(日本選手権大会等優勝)

長田拓也 西垣佳哉 向井智香 鳥居風樹 大上颯麻
藏田源貴 高橋隼人 小幡岳人 濱田晃成 桂木大和

澤田幸奈 北田野々花 土居心愛 藤原古都羽

土居幸愛 米田勝朗 荘司麻衣 鈴木亜由子 小倉久美

鈴木純菜 川口桃佳 市原和佳 細井裕菜 吉川侑美

佐藤敏信 田中秀幸 山本修平 長谷川令 三輪軌道

青木祐人 葛西 潤

(水野 隆夫)

編集後記

◇都道府県対抗駅伝の男女アベック優勝は、全県民の喜びだ。第100回日本選手権開催に弾みとなった。◇あと80数日。リオ・オリンピック選手選考へ向けて、万全の体制で臨みたい。◇新しいシーズンの幕開け。また各層の地道な努力が求められる。◇多くの方々の寄稿に感謝。

編集委員

大西 敏功 小坂 拓 竹前 正直 茶谷 和彦
新見 精三 西垣 完彦 野口 一昭 山下ゆかり
横田小百合